

## 講 評

児童画審査員代表 高崎市立大類中学校 吉田清明

このたびは、受賞された皆さん、そして保護者の皆様、おめでとうございます。

今年度のユネスコ国際児童画展は、昨年10月27日（金）から六日間、高崎市シティギャラリーにおいて、市内の各小・中・特別支援学校の素晴らしい作品が展示され、訪れる方々の目を楽しませてくれました。

出品された作品全体の印象では、小学校低学年は体験したことや感じたことを率直に明るく表した作品が多く、温かい気持ちになりました。高学年の作品になると、観察力や表現力、細かい描写や丁寧な彩色など、根気強さなどの成長が感じ取ることができました。

中学校の作品は、風景画、自画像、静物画、デッサン画などがあり、どの作品からも作品に対する熱意と時間をかけて丁寧に取り組んだことが感じられました。

今回『高崎ユネスコ協会賞』を受賞した八幡小学校6年の高橋敦大さんの作品は、校庭から校舎を望む風景を描いた作品です。手前の校庭、樹木、校舎の壁や窓ガラスなど、微妙で繊細な色を使い分けて彩色されていました。パレットで混色した色を画面上で重色することによって、ガラスに映る反射や校舎の壁の少し汚れた感じがよく表され、作者の観察眼の鋭さと学校や校舎に対する思い入れ強さが感じられました。

箕郷中学校3年の長島侑以さんの作品は、普段から絵を描くことに一生懸命に取り組んでいる作者の姿が伝わってきます。鉛筆や色鉛筆、絵筆などの描画道具を大きく精細に描き、実際にその鉛筆や筆で今まさにこの絵を描き進めているかのように見えます。作品の所々で未完成のような部分がありますが、これらの部分は、これからさらに描き込まれ、素晴らしい作品へと完成していくのであろうと見る人に予想させます。それは、きっと絵の中にしっかりと描写されている部分があり、その対比を印象づけることでそう感じさせるのでしょう。